

FD Newsletter

第9号

長崎純心大学 教育開発・FD委員会

発行 2021年3月 〒852-8558 長崎市三ツ山町235番地 TEL095-846-0084 FAX095-849-1894

目次

- 教育改善の歩み 2020 1
- FD研修会報告 9
- SD研修会報告 10
- 教育開発委員会活動報告 11

教育改善の歩み 2020

教育に関する問題点と組織的改善

文化コミュニケーション学科

改善内容	これまでの経緯
3年進学時におけるゼミ決定のプロセスを見直し、より学生の志向と教員の研究内容がマッチするように改善した。	志望順位を8位まで記入させることにより、第1志望のゼミに入れなくても、できるだけ卒論の志向が合う教員のゼミに入れるようになった。

こども教育保育学科

改善内容	これまでの経緯
卒業論文で求められる「理論研究」分野で求められる論文の枚数の下限を、16枚(1枚は40字×30行)から10枚に下げることによって、教員が持続的に卒業論文指導を行うことが可能となった。	2021年度より新3年生となる予定の学生が125名おり、これまでの学生数を大幅に上回る(現3年生は86名)一方、教員数は変わらないことから専攻演習、卒業論文指導を、いかに持続可能なものにするかが大きな課題であった。
2020年、乳幼児用の机(4台)、椅子(8脚食事介助用1台を含む)を中心に購入することができ、学生が具体的に乳児、幼児の動きをイメージしながら保育実践を学ぶことができるようになった。	2019年、C棟1階に「保育実践室」が新設されたが、より具体的な状況をイメージしながら保育実践を学ぶ場とするために、室内の設備を拡充することが求められていた。

地域包括支援学科

改善内容	これまでの経緯
<p>この報告会に参加する学生、特に次年度実習予定の2・3年生が資料を基に実習内容や今後の学習に必要なことを確認できるように、報告者がパワーポイントを作成して発表することとした。文字等で確認することで、発表者への質問がこれまで以上に多かった。</p>	<p>相談援助実習指導Ⅲでは相談援助実習を行なった学生が自己の実習を振り返り、実習報告会において口頭での報告を行なっている。また、相談援助実習指導Ⅰの受講生（2年生・3年生）が次年度の実習準備として報告会に参加している。しかし、資料がなく聞くのみでは報告会に参加する学生（次年度の実習予定の2年生・3年生）にとって実習内容を十分に把握することができない状態であった。</p>
<p>新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急事態宣言中において、オンライン（google classroom）を活用し、国家試験対策の問題演習を実施した。</p> <p>各自、課題に対して真剣に取り組み、緊急事態宣言解消後、課題提出をし、その問題の解説等を行った。</p> <p>主体的な学びの中で、問題演習を実施できたことから、国試の問題への取り組み姿勢、モチベーションは、例年よりも高くなったように感じる。</p>	<p>4月より対面授業形式により、問題演習や対策講座等を実施していた。</p>
<p>長崎大学医学部との事前協議を重ねつつ、オンライン使用方法の事前講義を行うことにより、滞りなくオンラインを用いた共修授業を実施することができ、共修授業評価の分析結果からは昨年度（2019年度）と同等の教育成果を明らかにすることができた。</p>	<p>これまで、本学と長崎大学医学部との共修授業は対面形式で行われてきたが、新型コロナウイルス対策のために、Zoomを用いた、共修授業を実施することになった。</p>
<p>長崎大学医学部や学生実行委員会との事前協議を重ねつつ、オンライン使用方法の事前講義を行うことにより、滞りなくオンラインを用いた実習を実施することができ、分析結果からも成果の一端を明らかにすることができた。</p>	<p>これまで、地域包括支援実習は五島・平戸の現地で行われてきたが、新型コロナウイルス対策のために、五島セミナーではZoomと集会形式の講義の併用、平戸キャンプではZoomを用いて実施することになった。</p>
<p>今年の相談援助実習における巡回訪問・指導については、新型コロナウイルス感染症状況等を考慮し、県別の感染状況等を踏まえ、長崎県外の実習先については、遠隔（リモート）による巡回指導を行った。</p> <p>実習先施設のICTの環境にもよるが、施設のパソコンや学生の携帯電話の無料通信アプリ等を活用し、画面越しの対面での指導を行うことができた。</p>	<p>これまで相談援助実習における1週間に1度の巡回指導は、長崎市内・西彼杵郡の実習先については帰校日対応を行い、それ以外の実習先については、直接、教員が巡回をし、対面による指導を行ってきた。</p>

教務委員会

改善内容	これまでの経緯
遠隔動画システムを導入することにより、対面授業と同等の授業内容を実施できた。	新型コロナウイルス感染拡大防止対策として教育効果の高い遠隔授業を可能とするために、複数の教室に画像、音声をつなぐ遠隔システムを導入した。
遠隔授業の実施に備えるために、全教員に Google アカウントを発行した。	遠隔授業の方法のひとつとして、Google (Meet、Classroom 等) を選択した。授業だけでなく、学生の受講や課題の管理を行った。
教務オリエンテーション後の学生からの質問事項を Googleform 機能を用いた WEB 入力形式に変更することによって、学生は時間を問わず質問が可能になった。また、質問と回答がデータとして記録することが可能になった。	質問は学事課窓口において随時受け付けていたが、新型コロナウイルス感染拡大防止対策として Googleform 機能を用いたことが、履修指導を向上させた。

入試委員会

改善内容	これまでの経緯
入学者に対する入学前教育として人文学部共通の小冊子『大学生になるみなさんへ』と課題シート（提出用）を作成した。	入学前教育は各学科に任せられ大学としての統一性に欠けていた。

学生委員会

改善内容	これまでの経緯
保留されたままになっている S 棟中庭の整備をめぐり、議論と提言をおこなった。	過去 2 学年の卒業生が S 棟中庭の整備のために贈呈してくれた資金の使い道が決まらないまま時間が経過してしまったことを心配し、当委員会の担当業務と定められているわけではないが、これについて議論し、上部に提言を行った。
E 駐車場の継続的な整備、学内及び大学周辺の土地取得を含めた検討を要請。	入学者数の増加に伴って、自動車・バイク通学申請者の割合が多くなってきている。今後学生募集の観点からも、駐車スペースの確保は重要な要素となることから、改善に向けて提言を行った。

<p>まずは、全学生を代表して学生会や純心祭実行委員との茶話会的な場を設けていただく様に要請。</p> <p>目安箱に寄せられた学生からの意見を学長まで届くように改善した。</p>	<p>学生の声を可能な範囲で取り入れ、結果的によりよい大学となるために、学長又は学部長・事務局長・学事部長等と学生との意見交換会を行ってはどうかとの提言を行った。</p> <p>目安箱の取扱いについても、電子化を含め検討してはどうかとの意見が挙がっている。</p>
<p>現在の同窓会組織をさらに活性化するために、例えば青年部を立ち上げるなどの取り組みを行ってはどうかと提言を行った。</p>	<p>現在の同窓会は、主に短大時代の方で組織運営が行われ、総会の参加者も短大や中高卒業者が大多数であり、大学卒業者はほとんど参加していない状況である。卒業生は様々な面で学園（大学）を応援してくれる存在であり、より強固な（特に大学を中心とした）同窓会組織を構築する事は喫緊の課題であると考えている。</p>

キャリア委員会

改善内容	これまでの経緯
<p>キャリア支援スタッフを中心に、委員会でも検討を行い、次のような対応ができた。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 前期オリエンテーションに代わるプログラムを提供することができた。その一つとして、ゼミ単位でキャリア支援室の訪問を受けた。 2. 純心ビジョン内に新たなツールとして「就活まで箱」を設定し、就職情報を得やすくする環境を整えた。 3. 全学科4年生の就職活動実態を把握するためのアンケートを実施し、この結果も踏まえ、4年生へのキャリア支援を継続している。 	<p>2019年度末から新型コロナの感染が拡大し、例年3月に行っている「前期オリエンテーション」が中止となった。また、前期の緊急事態宣言期間中は学内に入ることができないなど、例年通りの情報の流れが止まりやすかった。</p>
<p>学生の進路について早めに把握し対応するため、男女共学初年度の2年生に対する意識調査を行った。また、純心大学の男子学生を広く知ってもらうためにも、長崎県内の企業訪問や情報収集など行っている。</p>	<p>2019年度から全学男女共学となった。</p>

教育開発・FD委員会

改善内容	これまでの経緯
「授業充実への取組計画・報告書」について、教職員間での情報共有に留まらず、JunshinPortal から学生もアクセスできるようにした。	2019年度より「授業充実への取組計画・報告書」をスタッフサイトに掲載し、本学教職員の間で共有できる体制を作ってきた。
授業アンケートの期間設定について、本学の担当者による操作で設定できるようにした。このことにより、授業者の細かな希望に対応がしやすくなった。 (今後、科目の設定、アンケートの集計等の操作を担当者でできるようにしていく必要がある。)	2019年度より、学生による授業アンケートは、Googleform 機能を用い、スマホ等による WEB 入力形式に変更してきたが、アンケート実施に掛かる主要な設定は、業者に頼っている状況である。

図書委員会

改善内容	これまでの経緯
図書館初の利用者アンケートであり、アンケート結果を図書館業務や利用規則に反映するために、1年かけて検討しており、2021年4月以降に利用規則の変更を行う予定である。	2020年3月末に学生による図書館利用アンケートについて Googleform 機能を用いて、スマホからの入力を実施した。
対面での説明を少なくするため、PC画面で分かりやすく案内を行っており、画面もカラーで見やすい。	メインフロアに設置している図書検索用端末 1 台を OPAC の操作方法の説明用に使用している。
図書館演習室に新たに再利用の 24 台のパソコンとプリンター1 台を設置。新規のパソコン 2 台分の費用で 24 台のパソコンを設置することができ、費用の大幅な節減となった。設置と同時に学生の利用が大幅に増えた。	図書館演習室にパソコンが設置されていたが撤去され机だけが残っていた。L 棟3階のパソコン撤去に伴い、再利用し最新のアプリケーションを搭載することで、24 台の再設置が可能となった。プリンター1 台も再利用。
学生の作品などを展示する場所として、学生サークルの作品や授業の成果の発表の場として活用中である。図書館の入り口に一步を踏み出し図書館に関心を持ってもらえるようにと考えている。	エレベーター設置により、図書館正面入り口に空間ができたため、空間を活かしライブラリーギャラリーとした場所を作り出した。
図書館利用者アンケートの結果を意識して、図書館にあまり行かないと回答した学生にも関心を持ってもらえるように様々な展示やイベントを行った。 展示 27 回、イベント 6 回	図書館に普段来ない学生たちに図書館に来てもらうように、図書館の蔵書を活用した様々な展示やイベントを多数計画した。また参加型のクイズなども企画・実施した。

<p>国立国会図書館デジタル化資料送信サービスの開始。2020年11月末より、当大学図書館から国立国会図書館で公開しているデジタル化資料の複写が可能となった。入手日数と費用の削減ができ、更に閲覧できるデジタル資料が膨大となった。</p>	<p>国立国会図書館所蔵の資料（デジタル資料も含め）は文献複写や資料貸借しか方法がなく、数日を要しており、送料や事務手続きが発生していた。</p>
--	---

健康管理委員会

改善内容	これまでの経緯
<p>感染予防対策としてうがい、手指消毒やソーシャルディスタンス（教室・カフェテリア・ラウンジ）を守るなどを学内放送、掲示等で注意喚起を行なった。</p>	<p>新型コロナウイルス感染拡大により、感染拡大対策が急務となった。</p>
<p>配慮を必要とする学生に対しては、学事課、学生相談室、クラスアドバイザー等と連携を密にとり、家族調整を含め学生生活が継続できるように努めた。</p>	<p>メンタル面の不調を訴える学生が多く、入学して早い段階から保健室を利用する学生もおり、健康情報が把握できない時期の学生対応に苦慮する場面があった。</p>

実習・インターシップ支援〔教職関係〕（小学校）

改善内容	これまでの経緯
<p>公立小学校の教育実習依頼を4月当初に行うことで、他大学との依頼錯綜による受付控えが起きないように配慮した。その結果、学生が希望する母校での実習が可能となった。</p>	<p>これまでは2年生時の前期に行っていた教育実習依頼を、本年度より長崎大学教育学部が一般の小学校でも実習を実施するという情報を得たため、1校で複数の実習生受け入れは困難であることから、本学の学生の実習先を確保するために年度当初早々に行った。</p>

実習・インターンシップ支援（教職関係・幼稚園）

改善内容	これまでの経緯
<p>対面による授業だけでなく、Google classroomを活用することで、学生が授業内容や資料をいつでも確認でき、提出物を効率よく提出することができた。また科目を複数教員で担当しているため、教員間の共通理解ができた。</p>	<p>対面授業が実施できない場合や学生が登校できない場合でも授業内容や資料を確認できるようにすること、提出物の提出方法の効率化を図ることを目的に、Google classroomを活用した。</p>

実習・インターンシップ支援〔実習関係〕(福祉)

改善内容	これまでの経緯
<p>学内実習へと切り替えを行って実施した。その際には、実習費より予算流用して、教材図書、DVD等を購入して学内実習の充実を図った。また、配属予定施設の協力を得て個別事例の情報提供や新型コロナウイルス感染症に対する対応などについての現状報告をうけることができるように、連絡・調整をはかった。</p>	<p>予定していた配属実習の一部が、新型コロナウイルス感染症拡大のために、実習受け入れ先からのお断りによってできない状況となった。</p>
<p>学内協議の上、その費用の一部を補填して、学生負担を軽減した。</p>	<p>配属実習先から、PCR検査の要望があった。</p>
<p>オンライン、電話、メールの方法によって、できる限り指導が行える環境を整えて実施した。</p>	<p>教員による実習巡回訪問も困難な状況もあった。</p>

国際交流支援

改善内容	これまでの経緯
<p>「英語教育公開講座」「TOEICに備えるセミナー」「日本語教育公開講座」「Junshin Cup」など行事はすべて中止とした。</p> <p>同じく海外姉妹校の留学派遣および受け入れも中止となった。ただし、この件については留学希望者に対して説明会を行い、次年度以降の指導のためにもアンケートを行った。2021年度もすでにいくつかの留学プログラムの中止が決定されたが、それ以外のプログラムについては検討を行い、その度に学生への周知と指導を繰り返す予定である。</p>	<p>2019年度末から新型コロナの感染が拡大し、さまざまな行事が中止となった。</p>

特別の配慮を必要とする学生支援チーム

改善内容	これまでの経緯
<p>関係教職員への配慮要望事項に関する伝達および資料の配布方法について、教務に関する配慮に関係する教員に対しては直接配布する等の改善を行い、各担当者への情報伝達を明確化した。</p>	<p>関係教職員への配慮要望事項に関する伝達および資料の配布方法について、教授会で一斉に教員に配布伝達していたが、各教員が自身の科目に配慮学生がいるかどうかなどの意識を持ちにくく、情報の共有に課題があった。</p>

学生相談室

改善内容	これまでの経緯
新型コロナウイルス感染拡大により学生の入校禁止期間となった際には、カウンセラーが学生相談室より電話をかける形態での電話相談を行うこととした。なお電話相談はカウンセラーが必要と判断した学生かつ本人が同意した場合のみ実施した。	新型コロナウイルス感染拡大により、学生の入校禁止期間は、学生相談室は閉室しており、学生相談室で支援している学生へ継続的な支援を行うことができなかった。

医療・福祉連携センター

改善内容	これまでの経緯
南高愛隣会との協議を重ねつつ、調査方法の事前講義を行うことにより、滞りなくオンラインを用いた利用者調査を実施することができ、学生の教育成果につながる機会になった。	これまで、南高愛隣会の利用者調査は対面形式で行われてきたが、新型コロナウイルス対策のために、Zoomを用いて、調査を実施することになった。

2021年3月11日(木)に、2020年度長崎純心大学教職員FD研修会を開催しました。今回の研修会テーマは「ハラスメントについて」で、本学園顧問弁護士の山下肇氏に、約90分に渡り講義をしていただきました。

ハラスメントをテーマとした講義は、5年前にも本学教職員を対象として実施されたところではありますが、近年は全教職員を対象とした研修としては設定されていませんでした。こういった現状に対し、社会の状況は年々複雑化し、学生・教職員間や教職員間の人間関係においては、以前とは異なった配慮が求められる場面も増えてきました。講義の中では、「ハラスメントについての判断は、年々厳しくなる傾向にあり、以前は問題とならないようなケースも、現在はハラスメントとして判断する事例が多く存在する」との話があり、ハラスメントに関して、教職員が常に最新の情報に触れながら、認識を新たにする必要を感じさせられました。またハラスメントは、相手との関係性のバランス感覚の問題でもあるため、常に動的で、一概に定義づけて対応することができない面があると言うことを、より深く理解することができました。



事後アンケートには、67件の回答があり、研修会の内容について、37.3%が「とてもよい」、61.2%が「よい」と評価されました。また、今後扱って欲しいテーマについては、複数回答で48.5%が引き続き「ハラスメント」を挙げ、本テーマに関する参加者の関心の高さが伝わってくる結果となりました。

なお、今回の研修会は、リモートを基本として実施しました。ご講演をいただきました山下肇氏には、この場を借りて改めてお礼を申し上げたいと思います。ありがとうございました。

【参加者の声（事後アンケートの自由記述欄より抜粋）】

- ハラスメントに関わる状況の変化や現状について認識することができてよかった。講義にもあったように、具体的な事例にもとづいた研修などを何らかの形で継続的に行っていくことが必要だと考えた。
- 5年前にも山下先生の研修を受講しましたが、改めてハラスメントに関して注意しなければならない点などを確認することができました。このような研修会は定期的に必要なものであると思います。
- 人権（ハラスメント）については、研修会で取り上げてほしいと思っていました。守秘義務を要する案件ですが、もう少し具体的にお伺いしたかったです。相談窓口に行きやすい（行ける）環境作りが大切だと思いました。
- 山下先生より、前の研修会があった5年前とは判例などで対応や処罰が変わってくるのご発言がありましたので、数年おきにハラスメントに関する研修会が開催されればと思います。
- 自分自身は良かれと思っての言動でも、学生や同僚に対して、不快な思いにさせてはないか、再度、見つめなおす機会となりました。山下先生もおっしゃっていたように、現在は問題なくても数年後にはハラスメントとなることも考えられるので、世の中の動きや判例などで自分の認識も定期的にアップデートしていかなくてはならないと感じました。
- 具体的な事例を挙げて説明されていたので分かりやすかったです。色々な話を聞き、正直、人と関わるのが怖くなりました。知らず知らずのうちに自分がハラスメントをしていることがあるということが分かり、今後気を付けて過ごしたいと思いました。もう少し長く講話を聞きたかったです。
- パワハラやハラスメントの定義や基準は変化するという視点は興味深い。身近な事例についても知っておきたい。
- 5年前にお話を聞きましたが、時間がたつて無意識に行動していたことに改めて気づかせていただきました。また、ハラスメントの基準があがっているということや、男子学生に対する配慮等、これからの課題について触れられていたので、今後も学ぶ機会があるとよいかと思いました。
- ハラスメントの定義は難しく、時代につれてアップデートしていくものだという意識を持って行動したいと思いません。

2020年度のSD研修会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、リモートでの開催となった。今回、鹿児島純心女子大学、純心中学校、純心女子高等学校、純心幼稚園の教職員の皆様にもリモートでご参加いただいた。本学からの出席状況は、専任教員43名（53名中）専任職員26名（29名中）非常勤職員11名（19名中）合計80名（101名中）であった。



2020年4月から長崎純心大学の事務組織が一部変更したが、組織改編の必要性と意図について教職員間での情報共有が不十分であることから、研修会のテーマは『事務組織再編から大学改善へー本学の現状と今後の課題についてー』とした。事務組織改編の意図と目的、そして改編した組織における職員としての位置と役割など、大学当局が何を望んでいるのかということも含めた内容での講演を久保田事務局長に依頼した。研修会への出席状況は、レポート課題とアンケートの提出をもって確認した。

レポート課題は、次の2点とした。

① 事務局長の講演を踏まえ、それぞれ自分がいる立場からどのようなことができるかの改善点及び提案

② 6つのテーマ（別表1）の中から所属部署と関係なく学生に対する支援（サポート）体制の提案

レポートを紹介すると、『教員から見て、事務職員各々の業務が分かりにくいため、ある案件について誰に問い合わせるのか、または誰に伝えるのか戸惑うことがある。ひとりの職員がすべて対応することは無理があるので、業務の内容について事務局と教員で情報を共有することがあればよいと思う。』との現状の課題があがった。

アンケートでは、『カトリック大学としてのイベントなどで、キャンパス内の雰囲気盛り上げるなど、印象的なことを企画することにより、充実したキャンパスライフに繋がっていくのではないかと』との意見があった。

研修会の総括で松本学部長は、業務でトラブルが生じた際に担当者が“責任を押し付けられた”“非難された”ととってしまう当事者意識の欠如に言及し、部署、課内で同じ方向性（Vision）を持つことの必要性を話された。

長崎純心大学として一丸となり、同じ方向性（Vision）をもって業務に携わることはとても重要である。教職員、部署、課の垣根を超えた横のつながり（情報共有）を大切に、学生サポート体制の充実につながるよう、今後も教職員の資質向上をはかっていく必要がある。

（別表1）

	分科会テーマ（業務担当者に事前に依頼予定）
A	生活支援（サポート）体制 福利厚生（奨学金、学研災、住居、ボランティア）について
B	生活支援（サポート）体制 学生生活（アルバイト、バス通学、学生相談、人権デスク）について
C	教学支援（サポート）体制 授業全般に関すること（履修案内、履修関係の相談等を含む）について
D	教学支援（サポート）体制 図書館、博物館等の学内施設と学習環境について
E	実習・インターンシップ支援（サポート）、キャリア支援（サポート）体制 実習・インターンシップ、実習、就職活動について
F	特別の配慮を必要とする学生支援（サポート）体制 大学生生活を送るうえでの合理的配慮について

教育開発・FD委員会 活動報告

2020年度

■教育開発委員会

第1回	2020年	4月	15日	第2回	2020年	5月	27日
第3回	2020年	7月	15日	第4回	2020年	10月	7日
第5回	2020年	11月	4日	第6回	2021年	2月	17日

■学生による授業アンケート

前期 2020年7月27日(月)～8月8日(土)
後期 2021年1月12日(火)～2月10日(水)

■教職員による授業参観

通年で実施

■教職員FD研修会

日時：2021年3月11日(木) 10:00～11:30

テーマ：ハラスメントについて

講師：山下 肇(純心女子学園 顧問弁護士)

※コロナ禍の状況をふまえ、Zoomでのオンライン形式による開催

※教職員への事後アンケート実施(Google formによる)

図書・雑誌の案内

※教育開発推進室所蔵の図書や雑誌の貸出しを希望される方は、図書館で手続きを行ってください。

■定期購読雑誌等

「高等教育研究」日本高等教育学科会編 玉川大学出版部発行

「IDE 現代の高等教育」IDE 大学協会発行

編集後記

令和二年度、本學にウイルス禍は発生しなかった。上野彰義隊の變で「芝居も寄席も見世物も料理屋もみな休んでしまって、八百八町は眞の闇、何が何やらわからない」といふ中で、かの洋學塾が文明の燈をともしつづけた軒昂の志に負けず、本學の純心マッチも絶えなかったといふことにならうか。FSDS 研修會も遠隔操作ゆゑに返って集中力が高まり、ハラスメント防止等の要諦を心に銘記することができた。三年度は男子學生増加に随ひ新景象とともに新課題も生まれることであらう。(あ)

2020年度教育開発・FD委員会

委員長 原田 康英(こども教育保育学科教授) 石井 望(文化コミュニケーション学科准教授)

奥村 あすか(地域包括支援学科 助教) 中満 英子(学事課)